

We

地域医療、その先の未来へ

For
Staff

職員向け

advance

2004年秋「東住吉森本病院」移転新築に向けて

新しい
東住吉森本病院を
つくります。

私たちのめざす、これからの新しい病院とは？

医療法人 橘会

東住吉森本病院

Higashi Sumiyoshi Morimoto Hospital

New
Higashisumiyoshi

Spirits

いよいよ
新病院の建設が
始まります。
新しい病院に
ふさわしい、
新しい中身が
必要です。

私たち東住吉森本病院は、このたび「地域医療支援病院」の承認をいただきました。この承認は大阪府では初、全国でもわずか50施設のみ価値ある承認（平成15年2月現在）です。承認の取得にあたっては、地元医師会のご推薦もさることながら、医師、看護師、医療技術者、そして事務職員。当院に所属するすべての人々の努力が実を結んだものです。まずは素直に、皆でめざしてきた、この承認を共に喜びたいと思います。しかし、この承認はゴールではありません。私たちはこれからの時代にふさわしい新しい地域医療のカタチを模索してきましたが、「地域医療支援病院」の承認こそ、その理想の地域医療の中心に立つ新病院づくりの第一のステップと言えるでしょう。また「地域医療支援病院」の承認は、決して私たち東住吉森本病院のみにいただいたものではなく、地域の診療所、医療機関、地域医療に携わる先生方とのネットワーク全体に対していただいたものであり、さらには医療の枠組みの変化について、理解と協力をくださった患者さん、地域住民とともに、この街全体でいただいたものであると謙虚に受け止めることが必要です。このことを肝に銘じて、あえて強調させていただきますが、まず「地域医療を支援してやるんだ」といった驕った考え方、上から下を見下ろすような考え方を捨ててください。もはや一病院、一医療人の力では医療は行えない、そういう時代になったのだ、と。診療所の先生方、地域医療に従事するすべての医師の方々と手を結び、私たちの施設・機能を存分に利用していただくためにあらゆる努力を惜しまないことが「地域医療支援病院」の使命であると考えてください。「地域医療支援病院」の役割、機能は、まだまだ地域の診療所の先生方、また患者さんにも十分理解いただいているとは言い難いのが現状です。それをご理解いただくのは皆さんの日々の行為からです。この冊子を通じて、皆さんは「地域医療支援病院」の役割、機能を十分に理解し、新病院の中身としてふさわしい、地域医療の活性化と、質の向上に取り組んでいただきたいと思います。



院長
宮城 邦栄

新しい病院に移る前に、 どうしてもこれだけは やっておかねばなりません。

私たちのミッション(使命)の再確認

新しい病院に移転し、新しい病院をつくり上げるにあたって必要なのは、私たちの使命をもう一度確認することです。私たちに与えられた責務とは何なのか？何故、私たちはこの仕事を続けているのか？その再確認が私たちの新病院づくりには不可欠です。

対話と連携を重視し、 地域の健康と安心に貢献します。

東住吉森本病院は、急性期医療サービスの主要な担い手として、紹介・救急、入院の機能を重視し、患者さんの健康を第一義として地域に開かれた医療を提供します。

- 1 患者さんの立場に立った対話のある医療を提供するために努力します。
- 2 地域医療施設との連携を深め、地域医療に貢献するために努力します。
- 3 より良い患者サービスをするために、働きがいのある職場環境の改善・維持に努めます。

私たちのビジョン(あるべき姿)の再確認

私たちはどこへ行こうとしているのか？私たちの使命を果たすことによって、私たちはどのような姿をめざそうとしているのでしょうか？それを常に考えて、行動に反映させてください。

「地域に必要とされる病院」を めざします。

良質かつ高度な急性期医療サービスを提供するため、当院は「地域に必要とされる病院」をめざし、その実現に向けてさまざまなプロジェクトに取り組んでいます。

- 1 急性期医療（特化した専門の医療）を提供します。
- 2 地域医療支援機能を有します。
- 3 地域診療所の先生方との共同診療（開放型病床の利用）による開かれた医療を提供します。

vision

今、地域医療は。

今、地域医療は大きな転換点を迎えています。個々の医療機関が個別に医療を提供する時代が終わり、これからは地域全体で機能を分担し、提供する時代に入りました。当院が外来を削減し、救急と入院治療に特化した病院経営をめざすのは、外来機能を地域の診療所にお任せしていこうと考えているからです。こうした連携によって、地域の住民に最適の医療を安定して、効率的に提供できる医療ネットワークをめざします。

新しい病院の必要性・必然性。

医療の現状、そして地域医療の未来像を踏まえて、私たちは「地域医療支援病院」の承認をいただく取り組みを開始しました。その承認には「診療所からの紹介患者を中心に活動を行っていること」「紹介率80%」「病床、高額医療機器等の共同利用」「救急医療の提供」「地域医療従事者の資質向上のための研修の実施」の実現が必要です。中でも紹介率80%というハードルは極めて高いものでしたが、地域の診療所の先生方のご協力をいただきながら、2002年秋に達成することができ、翌年2月「地域医療支援病院」の承認をいただくことができました。そして、この承認を一つのステップとして、この街に理想の地域医療ネットワークを築くため、私たちは新たな地に病院を移転し、現時点で考える最善・最高の地域医療支援病院を建設することとなりました。それが「新しい東住吉森本病院」です。

地域医療支援病院を、どう捉えるか？

「新しい東住吉森本病院」は、現時点で考える最善・最高の地域医療支援病院となります。この「新しい東住吉森本病院」をつくり上げるために、どうしてもやっておかねばならないこと、それは私たち自身の意識改革です。これまで私たちの病院は、地域の中であって大きな病院として信頼されてきました。そして今回、「地域医療支援病院」の承認を取得して、皆さんの気持ちの中に、もし地域の診療所の先生方に対して優位を感じる一瞬があったら、まずそのことから反省してください。「地域医療を支援してやるんだ」といった驕った考え方、上から下を見下ろすような考え方を捨ててください。これからの地域医療は、一病院、一医療人の力ではなしえないのです。いかに優れた能力を持っていたとしても、これからの地域医療を一人で行うことはできない、許されないのだ、と認識してください。診療所の先生方、地域医療に従事するすべての医師の方々の能力を尊重し、私たちの施設・機能を存分に利用していただくためにあらゆる努力を惜しまないことが、「新しい東住吉森本病院」の、また「地域医療支援病院」の使命であると考えてください。

今まで誰もできなかったことを、 私たちがやらなければ ならないのです。

短期集中治療

医療の質的な向上に取り組む一方で、「院内事故防止体制の整備」と「詳細な入院診療計画（＝クリニカル・パス）の作成」を通じて、効率的な医療を実現。在院日数の短期化や病床回転率の向上などに取り組みます。また、より安全でより確かな医療の提供を進めていきます。

ネットワーク集患

保健・医療・福祉がトータルにネットワーク化された社会こそ、地域の住民が「健康で安心して暮らせる社会」です。私たちはこのネットワークの中で、医療分野、特に急性期医療を担っていくことをめざしています。このため、地域の診療所、医療機関や福祉機関との連携を強化し、外来機能を地域診療所に移譲します。また「かかりつけ医」制度を堅持し、とくに患者さんに対して「かかりつけ医」制度について、その意義や効用を正確にお伝えし、地域で「かかりつけ医」を持つことをお勧めしていきます。このことが患者さんにとってより優れた医療サービスを受けることに直結するということを、啓蒙します。

24時間救急対応

救急医療を提供する設備・施設を整備し、短期集中治療の実現や、病床の回転率向上などに取り組み、満床を理由に救急患者さんをお断りすることが無いような万全の体制を作ります。

専門性の強化

当院の人的資源や歴史的資産を生かし、当院ならではの強みを生かした専門分野を強化していきます。それが地域の診療所の先生から選ばれる病院としての、わかりやすいセールスポイントとなるはずです。

1 センター化による総合的治療

「消化器センター」に加え、「循環器」「脳卒中」の各分野をセンター化します。これにより各分野、各疾患に関する高度で専門的な医療情報や技術を集約した、集中的、総合的な治療を提供。患者さん情報も一元化されることにより、より確実、迅速な治療を実現します。

2 専門外来の立ち上げ

今後、当院ならではの得意分野を活かして、「専門外来」を立ち上げていくことにしています。「専門外来」は、患者さんにとって「専門医がいて専門的な医療を受けられる」という安心感が得られます。また、地域の診療所の先生方にとっても、どこに、誰に紹介すればいいかが明確になります。

3 日帰り手術センター開設

「日帰り手術センター」では、その部分さえ手術してしまうと全くの健康人という方を対象として、その日のうち、あるいは1泊2日程度で退院するシステムを採ります。米国では全手術の約80%、北ヨーロッパでも約50%が日帰り手術となっています。当院でも、こうした高いニーズに応えて多様な疾患の手術に対応していきます。

目標管理型人材育成

当院の「理念」「ビジョン」、そして毎年度の「事業計画」を、当院の職員全体で共有し、各職員の目標を明確にします。これにより、皆さん、一人ひとりが目的意識を持ち、地域の医療機関に従事する者としての自覚と責任を持って行動していただきたいと思います。

New
Higashisumiyoshi

Function

新しい東住吉森本病院は、 理想の地域医療の 第一歩です。

クライアント・サーバー型ネットワーク

クライアント・サーバー型ネットワークという用語を、コンピュータをご利用の方であれば、すでにご存知であると思います。私たちは理想の地域医療ネットワークを、クライアント・サーバー型ネットワークになぞらえて考えています。クライアントとは命令を実行するコンピュータであり、サーバーは情報を蓄積し、発信するコンピュータです。つまり、クライアントは地域診療所、または地域医療に従事するすべての方々です。そしてサーバーは当院。この診療所の先生や医療従事者の皆さまの要請に応じて機能を実行したり、蓄積した情報を発信します。サーバーは姿形こそクライアントより大きいですが、実際にはクライアントに利用していただくことを前提とした存在なのです。つまり、私たちの機能と施設、設備を、地域の医師の皆さまに存分に利用していただくことが、地域医療支援病院の重要な使命です。それだけに私たちは私たちの敷居を高くすることなく、まさにすべての壁を取り払い、門を開け放って、地域医療に従事する医師から、入りやすい、行きやすい、参加しやすい、と思っただけの「開かれた病院」をめざします。まさに「みんなの病院」なのです。地域住民や地域の患者さん、地域医療に従事するすべての方々に、私たちの病院を開放します。

クライアント(診療所の医師)に利用していただく サーバー(東住吉森本病院)の機能

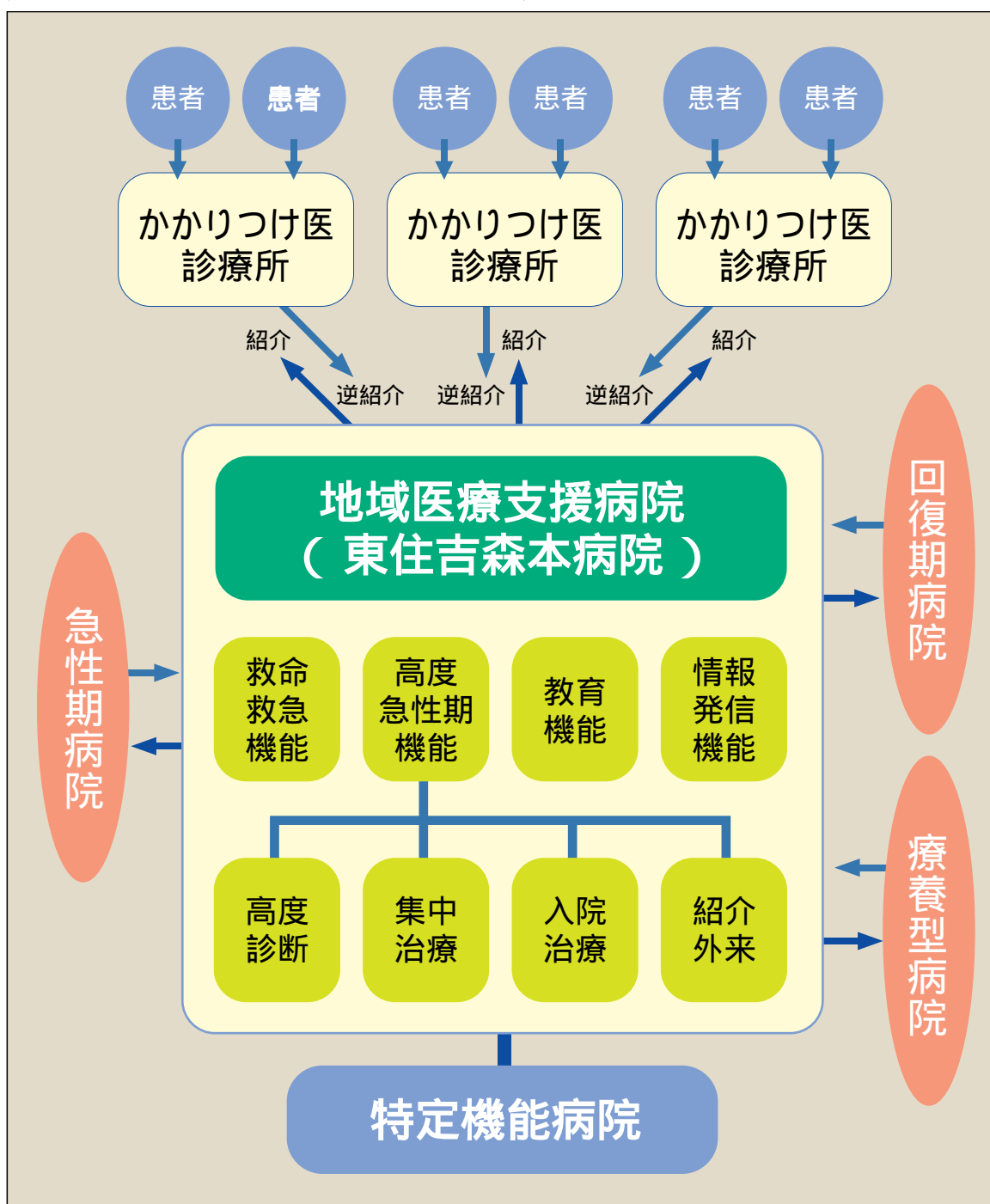
■ 情報発信機能

患者さんに納得のいく医療を受けていただく上で、情報提供は不可欠です。また、信頼のおける医療を実現するためにも、包み隠さず情報をすべて公開していく必要があります。また、緊密な医療連携の実現のためにも自院の持つ医療サービスに関する機能・人的能力、設備等を積極的に開示していくことが重要です。さらに地域住民が健康で楽しく、生き生きと人生を送るための情報とサービスを提供するのも、私たちの使命です。

■ 教育機能

地域医療に従事する方々との研修会や、登録医との勉強会を積極的に行っています。私たちのめざす理想の病院とは、地域における医療に関する人材研修センターの役割を担うべきだと考えています。

クライアント・サーバー型地域医療ネットワーク



New Higashisumiyoshi Plan

新しい東住吉森本病院の創造へ向けて、あなたの知恵と力を。



1 救急医療機能

東住吉地域住民の生命を守る
24時間365日の救急体制。

従来通り、24時間365日の救急体制を堅持していきますが、さらに「第3次救急」に匹敵するクオリティをめざしました。第一は何よりゆったりとしたスペース。救急搬送車専用のエントランスや処置室をはじめ、これまでのような狭隘な環境下とはまったく次元を異にします。第二には救急車の到着から診察、検査、手術といった一連の流れがスムーズに、かつ短時間で、さらに患者さんにストレスを与えることなく可能なように「動線」を徹底的に見直しました。そして第三は救急ゾーンと一般外来の分化、救急観察病床と一般病床との分化です。これらの結果、スタッフ自身が緊急対応に集中し、

その能力を充分に発揮できる環境となっています。

2 高度診断機能

1・2階に、検査から診断までを行う
高度な医療設備・機器を
集約しています。

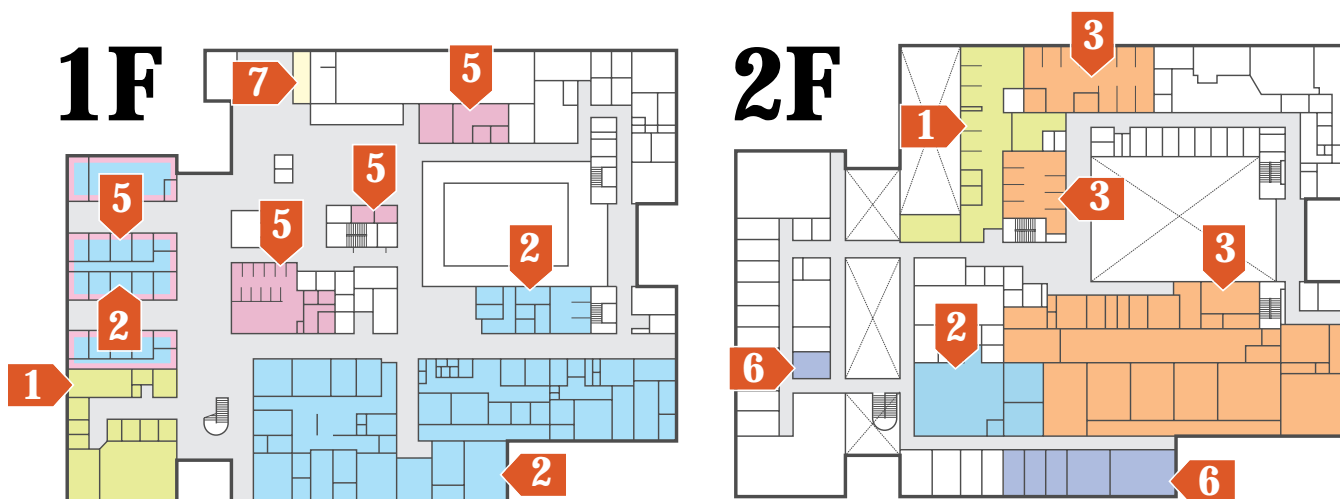
検査機能はほとんどを1階に集約し、ゆったりと十分なスペースを確保し、機器の増設もしました。X線CT装置、MRI、アンギオ、内視鏡、XP撮影装置、X-TV撮影装置等、最先端の医療検査・診断機器を揃え、さらにCT付PET（ペット）など将来的な先進的医療設備の導入のために、余裕を持たせた空間設計となっています。これまでより数段充実することとなったこれらの検査機能により、各科の専門医による診断がより確実に、より迅速に行うことができるようになります。

3 集中治療機能

短期間に集中して患者さんに
高度な治療を施すための機能と
設備を整えています。

手術室は5室に増設し、予定手術と緊急手術が重なった場合も調整がしやすくなりました。また器材などの搬入と搬出の動線を分化し、衛生的な環境に配慮しています。

ICUはクリーンルーム化した完全型ICUとして10床を整備、一般病床とはフロアが異なるため、24時間体制の看護に集中することができます。2階の日帰り手術センターでは6床を設けて、日帰り手術に対応。もちろん念のための1泊程度の入院も可能となっています。



4 入院治療機能

3つのセンターを中心に、入院患者さんのためのQOL向上を主眼においています。

3階には脳卒中センター、4階には消化器センター、そして5階には循環器センターを設けています。3つのセンターを中心に、いずれの病棟でも入院患者さんのQOLの向上を主眼におき、専門的な入院治療を提供します。環境面においては、全病室にロッカー、トイレを、一人用の病室にはユニットバスも設けています。また、3階には寝たままの状態で入浴できる特別浴室を設けた他、各病棟にもすべて浴室を設けています。さらに長居公園を見渡すことができる最上階食堂、ここでは患者さんとご家族と一緒に利用できます。また3~5階にも食堂を整備しました。これら入院生活自体の快適さへの追求の結果、看護師は看護そのものに専念できる環境となりました。なおスタッフステーションは、オープンカウンターとして、看護師がつねに病棟に気配りできるように配慮し、また病棟ごとにカンファレンスルームを設けています。さらに院内感染とバリアフリー、あるいは臭いといったことに対してもきめ細やかに配慮しています。

5 紹介外来機能

紹介患者さんのための落ち着いた外来スペース。

外来では、診療所の先生や地域医療機関からのご紹介で、当院の専門的な治療を受けられる方を中心に受け入れてまいります。患者さんに対しては、治療に関する詳細な説明が、落ち着いた雰囲気の中でできるようにIC（インフォームドコンセント）ブースや、医療相談、看護相談をお受けできる相談室を設けました。

6 教育機能

地域医療の質的向上や交流の場として。

2階にある図書室は言うまでもなく、会議室、大会議室、さらには6階の講堂等も地域医療のために開放してまいります。医師をはじめ職員の皆さんが率先して地域医療従事者との勉強会や研究会、セミナーの実施、また交流などに利用し、地域医療全体のレベルアップに役立てていただきたいと考えています。

7 情報発信機能

地域医療全体に役立つ情報を発信してまいります。

1階エントランスホールでは、患者さんや地域住民の方々に対して「かかりつけ医制度」を啓蒙したり、当院と連携してくださる診療所などの情報を提供、地域医療連携がスムーズに働くような広報活動を展開します。また、健康的な生活を送るために必要な医療・健康に関するさまざまな情報も提供し、地域全体の健康を守る役割も果たしてまいります。

さらに、地域との連携を進めるため、当院のあらゆるデータ、情報を、診療所の先生方のご要望に応じて開示します。

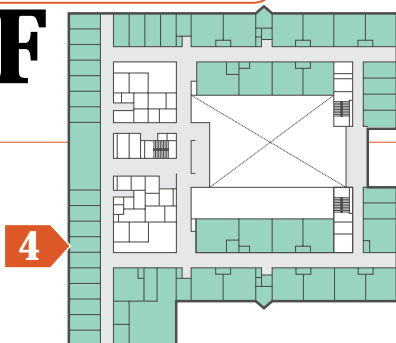
8 職員向け施設

職員の皆さんの取り組みを踏まえて。

一つは気持ち良く働いていただける環境づくりです。廊下の幅や作業がやりやすいようさまざまな工夫があります。また、各階に休憩室を設けたり、最上階には見晴らしのいい食堂も設けました（患者さんと共用）。そしてもう一つが、皆さんの医療の質の向上への取り組みを支援する環境づくりです。図書室を設けたり、これまで以上に会議室、ミーティングルーム等を設置し、皆さんが機会を見つけて、仲間達と共に自らの専門知識や技術等の向上に努めていただけるようにしました。アイデアを持ちよって存分に活用していただき、新しい病院づくりに役立てましょう。

脳卒中センター

3F



循環器センター

5F



消化器センター

4F



6F

